



アクセス



JRで
岡山 → 松江.....140分
・一畑電車で
松江しんじ湖温泉 → 津ノ森.....20分
・飛行機で
東京 → 出雲縁結び空港 - 90分 (JAL)
大阪 → 出雲縁結び空港 - 60分 (JAC)
福岡 → 出雲縁結び空港 - 70分 (JAC)

車で
山陰道・宍道ICより.....25分
出雲縁結び空港より.....20分
JR松江駅より.....20分

ホームページ

<http://matsue-city-koumikan.jp/oono/>

お問い合わせ先

松江市大野公民館
〒690-0265
島根県松江市上大野町1855-1
TEL 0852-88-2051

○編集・発行○

大野地区がまち自慢
発掘プロジェクト実行委員会

平成26年3月作成
令和3年9月改版



いつも元気な大野っ子

わがまち見どころ・自慢

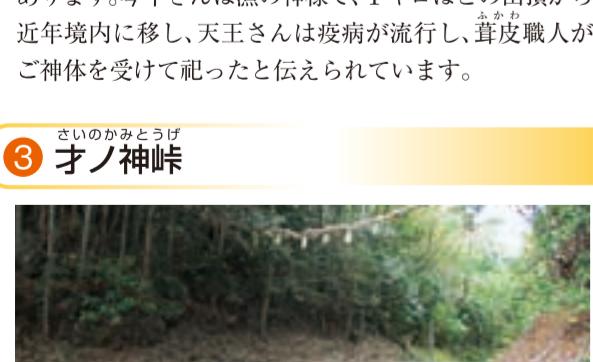
1 魚瀬のとんどさん (現在は諸事情により中止中)

左吉兆ともいわれ、古くから行われている正月行事で、「竹迎え」「花造り」「神木の竹立て」「宮練り」「神木を倒す」と「んど焼き」を東組、西組で行い一年間の豊漁と室内安全を祈ります。



2 錬丹三所大荒神社

錬丹三所大荒神社のご祭神は須佐之男命です。本社は創立年代不詳ですが、古来錬丹地区の氏神として里人に崇敬厚い神です。神社の境内には、本殿のほかに「琴平さん」と「荒神さん」「天王さん」を祀った三社があります。琴平さんは漁の神様で、1キロほど山頂から近年境内に移し、天王さんは疫病が流行し、葺職人がご神体を受けて祀ったと伝えられています。



3 オノノ神峠

津ノ森から日本海に向けて北上しますと、大野小学校付近までは平坦な地形ですが更に進みますと急峻な道路が続きます。やがて峠にさしかかります。ここがオノノ神峠で一年中注連縄があります。昭和14~15年頃疫病が峠を越えないように境界のオノノ神峠に唐辛子を付けた注連縄を張ったのが最初でないかといわれています。毎年旧正月頃に張り替えられています。

4 大将軍



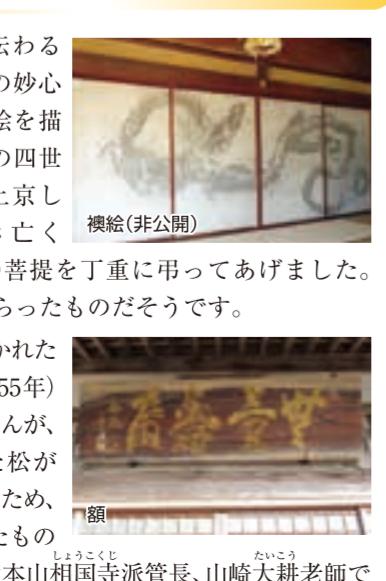
吉凶を占う方位の神の一人が大將軍です。大野氏の滅亡の際、その財宝を隠し埋めたところと伝えられていて、そこから名前がついたのではと言われています。大將軍にある草木やお堂には、たたりが出るので触るでないと伝えられています。

5 丸戸神社



朝日が出来る頃の戦いで、朝日がまぶしく矢が受けられず、討たれて亡くなった武士を祀ったと言われています。昔は朝日がよく当たる場所にあったと言っています。時期は不詳ですがよくないことが度々あるので、日陰の現在地に移したそうです。

6 西光寺の襖絵と額



襖絵(代)住職に伝わる話では、蘆雪が京都の妙心寺、塔頭海福院の襖絵を描いている時、西光寺の四世になる鶴蘭和尚が上京しておられ、このとき亡くなった蘆雪の母親の菩提を丁重に弔ってあげました。そのお札に描いてもらつたものだそうです。

【額】「無量壽殿」と書かれたこの額は昭和30年(1955年)に地元の木挽き職人さんが、蘆床から切り出した松がありにも見事だったため、本堂の額に寄進されたものです。揮毫は京都の大本山相国寺派管長、山崎大耕老師であり、地元の大工職人さんが刻んだものです。

現在の大野

大野のシンボルである本宮山は、市道古志大野線から自動車で登ることができる。山頂は展望台になっています。

そこから、南北に宍道湖を見降ろし、そこもまた多くの山に囲まれています。

また、日本海と東に本宮山西に十勝山があり、

二つの山をむすぶ山々が分水嶺です。

大野のシンボルである本宮山は、市道古志大野線から自動車で登ることができる。山頂は展望

台になっています。

地区のかたちは、東西が約2.5km、南北が約6kmで、南北に長く東西に短くまた北のほうが広く南のほうがせまく、馬の横顔のようです。

また、日本海と宍道湖の中ほどの大野山に十勝山があり、

二つの山をむすぶ山々が分水嶺です。

大野のあらまし

はじめに大野地区は、島根半島のほぼ中央にあって、松江市の西はしに位置し、大野町、上大野町、魚瀬町からなります。

地区的のかたちは、東西が約2.5km、南北が約6kmで、南北に長く東西に短くまた北のほうが広く南のほうがせまく、馬の横顔のようです。

はじめて古墳時代をむかえると、県内最大の円墳である「大垣大塚」は隣の大垣町にあり、大野地区内に多くの県内有数の前方後方墳です。この地域にはおよそ1600年前、このような大

古代の大野

魚瀬海岸からは、縄文時代の石のオノやサラが、また大野川からは弥生時代の土器が発見されていて、古くから人が住んでいたことがうかがえます。

やがて、古墳時代をむかえると、県内最大の円墳である「大垣大塚」も、全長約45mの県内有数の前方後方墳です。この地域にはおよそ1600年前、このような大

きな古墳を持つことができます。

有力者がいたようです。

733(天平5)年、奈良の都に報告された出雲國風土記では、当地は「秋鹿郡大野郷」とされていた。地名の由来は、むかし大國主命の皇子様の神が狩りをされたときに、当地で獲物のイノシシを見失われ、「猪の跡」(「矢矢」)となり、それがさらに誤って「大野」となつた、とされています。

「大野」とされ、その後は、地名として残っています。

近世の大野

平安時代の末期、この地域は大野と大垣をあわせて「大野」庄とよばれるようになります。ここに1190(建久元)年、地頭職として赴任した武士が、大野氏の先祖です。尼子氏が山陰と山陽を支配した毛利氏の配下となり、大野氏は、尼子氏とともに参画しました。この時代、大野氏は本宮山に山城を築き、支族の大垣氏は本宮山南麓の亀畑山に、同じく富倉氏は十勝山に墨をもち、大野氏一族は約400年間、

18代をもつて滅亡しました。

ついに1582(天正10)年10月、宍道氏は筑城祝いを実現に到了。大野氏や大垣氏の当主たちを不本意に思い、「一方宍道氏も毛利勢のなかでは宍道氏の配下に組み入れられます。鎌倉以来に通じて、四方に伯耆・石見、尼子氏に従い、やがて毛利氏の配下となり、宍道町の尼子氏とともに参画しました。この時代、大野氏は本宮山に山城を築き、支族の大垣氏は尼子氏の山陰と山陽を支配し、かつての領地に越前大野藩の「前大野藩」5万石に加増され、ついで信州松本藩では7万石と出世します。その越前大野藩は現在の福井県大野市一带ですが、米豆など穀物の产地として有名です。また、出雲そばは、直政公が松本藩から持ちこんだといわれますが、同様に花卉栽培や養殖漁業新たに花卉栽培や養殖漁業

が生まれ、さらに戦後の産業を支える人材を輩出しました。

じく当地の特産品「大野大豆」は、直政公の命令により当地で栽培・献上させたとの言い伝えがあります。推測になりますが、直政公は、地味が豊かであります。しかし、尼子氏も毛利勢のなかでは尼子氏の配下に組み入れられます。鎌倉以来に通じて、四方に伯耆・石見、尼子氏に従い、やがて毛利氏の配下となり、尼子氏とともに参画しました。この時代、大野氏は本宮山に山城を築き、支族の大垣氏は尼子氏の山陰と山陽を支配し、かつての領地に越前大野藩の「前大野藩」5万石に加増され、ついで信州松本藩では7万石と出世します。その越前大野藩は現在の福井県大野市一带ですが、米豆など穀物の产地として有名です。また、出雲そばは、直政公が松本藩から持ちこんだといわれますが、同様に花卉栽培や養殖漁業

が生まれ、さらに戦後の産業を支える人材を輩出しました。

733(天平5)年、奈良の都に報告された出雲國風土記では、当地は「秋鹿郡大野郷」とされていた。地名の由来は、むかし大國主命の皇子様の神が狩りをされたときに、当地で獲物のイノシシを見失われ、「猪の跡」(「矢矢」)となり、それがさらに誤って「大野」となつた、とされています。

10 松江花園

松江花園ではこの辺では珍しいシクラメンを栽培しております。シーズンになると色とりどりの花が咲きそろい、とてもきれいです。一度見学して見て下さい。とてもさわやかな気持ちになります。



13 正一位稻荷神社

ご祭神は倉稲魂です。本殿は大野町殿山にあって、もと十勝山城主官倉氏が勧請した城の守護神であったと言われています。官倉氏の末裔と伝えられている奥原氏が奉祭し、現在地に移転し、その由緒を認められて、明和8年、神祇官より、正一位の位階を追贈せられています。今は、奥原氏を始め、殿山地区の氏神として祀られています。



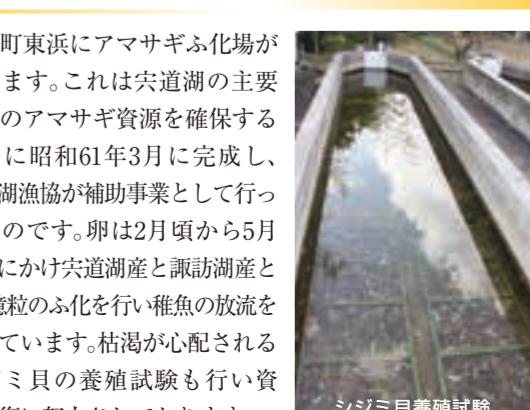
14 六手観音

山中地区片山にある観音堂は「如意輪觀音」を祀った祠で、護持されている家では「六手觀音」と言い、250年以上前から祀ってきたと伝えられています。毎年8月17日には觀音供養が行われています。



15 アマサギ(ワカサギ)ふ化場

この道標は、旧大野村と旧伊野村の境界にあります。「右一畠」「左松江」と刻まれています。そばに三十一丁町石も寄り添うように設置されています。以前はここで一畠中道を通っていた人にはじめて一畠寺の遠景が目に入りました。



16 クジラの化石

宍道湖の漁師さんが珍しい石と思い、宍道湖の湖底から引き上げ保存されていました。約1300万年前のクジラの化石と聞いてびっくり。現在はゴビウスに所蔵しています。

17 津ノ森の歳徳神(神輿)

正月の歳徳神の宮祭りに、とんどの宮「神輿」を担ぎ、笛や太鼓を鳴らしながら集落を練り歩く行事が東組、西組で行われてあります。当屋が先頭で「額」を持ち、統いてとんどの宮を担いでいる者や、笛・太鼓を庄屋が指揮して地区をまわります。宍道湖岸で門松や注連縄、お守りを燃やして、五穀豊穣・無病息災・招福を祈ります。



18 かなぎ漁

船上から箱舟がねで海底をのぞきながら、貝を採取する漁師です。熟練を要する作業ですが、今でも6人の漁師さんが伝統を守りながら漁を続けておられます。魚瀬の海でそれたサザエなどとてもおいしいです。



くにみ 出雲を国見するコース

ピュースポット(車で片道約80分)

A 宍道湖の朝日



大野町の南端、津ノ森の湖岸は朝日の絶景スポットです。冬場は湖上にはるか伯耆大山から昇る幻想的な朝日。夏は寝仏のかたちに見える嵩山・和久羅山から射してくる後光のような日の出を拝むことができます。

B 十膳山からの展望

この山は大野氏の一族宮倉八郎五郎の城であったと伝えられています。永禄12年(1569)尼子勝久の再興戦のとき、大野氏や大垣氏とともに毛利氏に味方して戦い、毛利軍に貢献しましたが、十膳山城主宮倉右衛門兵衛は尼子勝久に味方しました。真山城の落城後どうしたのか、記録なくその行方がわかりません。雲上遥か出雲地を眺め、戦国の世に、しばし思いを馳せられては如何でしょうか。

C 東村大日堂からの展望

大日堂に手を合わせて振り向けば、遠くは中国山地の山並み、斐伊川の流れ、宍道湖や近くは十膳山の眺望が楽しめます。周辺の高台には整備された畠場が広がり、大野ごぼう・里芋・豆類等々良質な農産物を生産しています。十膳山の彼方に沈む夕日は絶景です。

D 本宮山からの展望

本宮山の標高は279.4mで、NTT関連の施設があります。最近、大野公民館事業として整備され、伯耆大山・三瓶山・宍道湖・斐川平野・中国山地・日本海・隕石など360度の眺望が楽しめる場所として町内外の人々が散策においてになります。



E 魚瀬の展望台

大野地区南から北進してオノ神峠を通過し、しばらく急峻な県道をくだりますと魚瀬の島並みが見えます。バス停付近に展望台が設置されております。それまでの景色は一変し、眼下にはどこまでも青い海が広がり遠くは隕石の島や眼下には女島などが一望でき、心が洗われるようです。

F 伊勢ヶ滙

魚瀬の展望台を更に海岸に下り、東進しますと女島が間近に見えてきます。更に東に目を向けてみると、人をも寄せ付けない断崖絶壁が連続し、絶景に圧倒されます。

↑ 大山

くにみ 神社仏閣をたずねるコース

神社仏閣をたずねるコース

パワースポット(車で片道約70分)

G 大野津神社

出雲國風土記に記載されている古社です。ご祭神は須佐之男命。流れ着いた蛇骨を押し、雨乞いの神事が行われることでも広く知られています。昭和9年7月に伊野・秋鹿・大野で雨乞い神事が行われた記録が残っています。



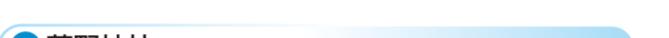
H 細見神社

本社は上根尾地区の氏神で、ご祭神は大山都見命です。江戸時代の学者は、本社を出雲國風土記記載の「細見社」で当時の「上名(かみみょう)=かみねお)の牛鞍大明神」、同じく「同下社」を「杉戸大明神」に比定していることから明治になり社名を「細見神社」とされました。



I 高野宮(内神社)

出雲國風土記に記載されている古社で、旧大野郷中に鎮座の四十二社の總本社でした。ご祭神は和加布都命・下照姫命です。出雲大社・佐太神社の支配を受けない格別の由緒深い神社です。例大祭には、近郷の大人・大野の小中学生も参加する相撲大会が奉納され賑わいます。平成25年9月には御鎮座1300年記念事業が挙行されました。



J 草野神社

出雲國風土記に記載されている古社です。草野神社のご祭神は加夜奴比女命、配神は南八幡宮で、ご祭神は磐田別命です。草野神社の元鎮座地は旧大野村上分紅谷でしたが、明治初年、字南の南八幡宮に合祭して草野神社を本体とし、「八幡さん」とよばれ親しまれています。現在も、芋は芽を出し、隣にはお大師さんがお祀りしています。



K 萬年山西光寺

天正10年本宮山の城主、大野彦治郎高成が死去したため、人々これを悼み、寺を大野氏居住の地である現在の所に移転し、慶長3年に移転落成供養が営まれました。これより高成公を当寺の開基として祀りました。今山西光寺は約20年間無住であったが、奥出雲町三沢の藤涼寺より閑州大和尚を迎えて妙心寺派に属し、当寺の中興第一とし、現在の昌子宗賢和尚は十三世です。本尊は阿弥陀如来像で、恵心僧都の作と伝称されています。長沢蘆舎の模絵(非公開)が特に有名です。



L 正受寺護摩堂(四国八十八ヶ所)

魚瀬の村松元市さんが健康状態の回復を願い、四国巡礼を行い快方に向かった為、大変喜び御堂を建立し弘法大師を迎え、大正4年7月落成供養を営まれました。本尊は聖觀音菩薩です。後に古江の成相寺の徒弟となり元梅と称し高野山大師会教支部を設立、住職を拝命されました。信者は広範囲および崇敬者多数でお大師さんとして親しまれていました。現在、正受寺は平成25年に無くなり、護摩堂が残されています。



M 八神神社

古くは八王子権現と称していました。古伝によれば、秀吉が行った朝鮮征伐に従った船乗りさんが、この地に流れ着き、各自の産土神を勧請して八神を祀ったのが起源であるといわれています。ご祭神は5男3女の神であります。この正統を継ぐ8軒は現在17~18代と続いています。漁業の神として地区の人々が崇敬をしています。



自然散策をたのしむコース

ウォーキング

N 本宮山登山コース(徒歩片道約60分)

N-1 土居城跡・古墓群 西光寺の裏山には、大野氏の居城跡で大野氏が滅びた後に治めた武士の居城跡と言われる土居城跡があり、主郭跡と二郭跡があります。土居城跡の途中には昭和44年に発掘された、室町時代以降のものと類推される大野氏歴代の古墓群(五輪塔等)があります。

N-2 村東ごぼう畑 本宮山から東村大日堂付近にかけて、香り・味・食感抜群の大野ごぼうが生産されています。

N-3 東村大日堂 魚瀬の浦に流れ着いた大日如来を本尊として祀ったと言われています。大日如来が作物の良くできる肥えた畑を持ってこられたと言われています。牛馬の守護神。毎年2月28日・8月28日には供養、1月5日には「おもつづん」が今も行われています。

N-4 本宮山・城跡 出雲國風土記載、内神社の本宮があり、中世では大野氏のお城があったところです。昭和34年に旧日本電信電話公社無線中継所の管理道路が出来たので、一般の人でも気軽に訪れることが出来るようになりました。山頂には郷土出身「小林春岳」揮毫による記念碑が設置されており、平成22年には展望説明板や本宮山説明文が設置されています。

O 一畠中道十膳山コース(徒歩片道約70分)

O-1 芋の谷 ある日お坊さんが、村人に芋をわけてくれるようにお願いしましたが、喰えない芋であると断りました。村人がいが煮えた芋を食べようとするが硬くて食べられなくなっていました。その芋を井戸端に投げ捨てると、たちまち青い芽が出てきたそうです。驚いて、和尚さんにわけ話をすると、弘法大師さんに違ないといいとお詫びお詫びが残っています。現在も、芋は芽を出し、隣にはお大師さんがお祀りしています。

O-2 一町地蔵 松江から大社への道と一畠薬師への道が西長江で別れます。起点のとっくり形の石の道標で正面に「右一畠中道」「左 大社」と刻まれています。これより一畠薬師へ88丁(約9.6km)一畠中道のはじまりです。参拝者の為に1丁(60間109m)毎に町丁石が置かれ87基が一町地蔵さんとして親しまれています。

O-3 一本松の狐地蔵 昔、上根尾地区の一本松に、人に化ける古狐がいて村人をだらし喜んでいました。近くの獅頭が退治しようと娘に化けた狐を逆にだまし捕らえましたが二度と悪さをしないと命乞いをしたので逃がしてやりました。すると狐はその札に一夜で田植えをし、また良く実りました。獅頭はお詫びをしました。

O-4 十膳山 大野町殿山と出雲市野郷町(高山)の境界にあり、標高は193.6mです。出雲國風土記には「この山には林がなく、頂上付近には、周囲89mもある沢があり鷺鷺(おしどり)」という美しい水鳥が住んでいたと記されています。近年、地元の人が登山道を造り休憩所を設置しております。山頂からの眺めは宍道湖、斐川平野、遙か中国山地から石見の山並まで展望できます。

P えびすだいく大橋コース(徒歩一周約120分)

P-1 えびすだいく大橋 魚瀬地区住民の夢であった県道の改良が平成25年3月に完了し、非常に便利になりました。その道路の一部として、延長166mの橋梁が「えびすだいく大橋」です。橋の名前は「北島建孝國造様」の揮毫によるものです。白堀の橋梁と青海のコントラストがとてもきれいで。

P-2 秋葉山(秋葉神社) 县道大野・魚瀬・恵雲線のオノ神峠から魚瀬方面に約300m下った左側に登山道があります。山頂には秋葉神社が祀っています。登山道途中の木陰からは美しい魚瀬の海が見えます。

P-3 海辺の女島 出雲國風土記にも記載されている女島です。漁業の神様として三島神社があります。ご祭神は事代主命(蛭子命)であります。近年までは島でありますましたが現在は陸続きになっています。夕方になると船の航行が女島の陰から見え、女島の美しい松と共に夕日に映え絶景です。



P-4 旅伏山

本宮山山頂より、宍道湖を望む。